

「三笠ジオパーク」を活用した実践事例

■ 身近なジオパークの自然や歴史を活かした学習（三笠市立岡山小学校）

Point 化石採取等の体験をジオパークにおける学習に結び付ける。

●実施学年 第3学年～第6学年

●教科等 総合的な学習の時間（地域科）※教育課程特例校

●目標 三笠の自然、歴史などを生かした学習を通して、自分たちが生活する地域に対する興味・関心を高めるとともに、三笠を知り、三笠を愛し、三笠の未来を考える態度を育成する。



●内容（第5学年）

【ジオパークでの地層観察や化石採取の活動】

時間	○主な学習活動	□教師の働きかけ	備考
1次	○ 化石から三笠の歴史を知る。 ○ 学んだことをもとに自己の課題設定を設定する。 ○ 地層の観察、化石の採取を行う。	□ 外部講師と連携を図り、生徒の興味・関心を高める事象や事例を提示する。	・外部講師の活用
2次	○ 太古の生物と現代の生物のつながりや、三笠の大地や自然の変化等について調べる ○ 生物の多様性について考える。	□ 採取した化石から三笠の大地や自然の変化の様子等に気付かせる。	・外部講師の活用

※国の認可を受け、小学校第3学年から中学校第3学年まで系統的に地域について学習する「地域科」を設定している。

■ 宿泊研修においてジオパークを活用した学習（中富良野町立中富良野中学校）

Point 三笠ジオパークと地域の自然を比較、調査し、地域の理解を深めさせる。

●実施学年 第2学年

●教科等 総合的な学習の時間（27時間）

●目標 宿泊研修における三笠ジオパークの見学を通して、北海道の自然について理解を深めるとともに、地域の自然の移り変わりや地層について観察・調査し、考察することができる。



【ジオパーク施設の見学】

●内容

【活動の流れ】

- ① 三笠ジオパークで見学、調査する目的について話し合う。
- ② 三笠ジオパークの施設見学及び調査を行う。
- ③ 中富良野町の自然等と三笠ジオパークとを比較し、共通点や相違点を考慮し、それぞれの地域のよさ及び特徴についてまとめる。
- ④ 町の文化発表会で調査結果を発表し、意見交流することを通して地域の自然について考えを深めるとともに、中富良野町のこれからの街づくりについて課題意識をもつ。

【配慮事項】

- 比較する視点を明確にし、他の地域を調査することにより、自分の町の歴史や自然の豊かさをとらえることができるようにする。
- 北海道や地域の特徴を生かした街づくりについて考えさせる。

「洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク」を活用した実践事例

■ 野外学習テキストを有効活用した学習

(小樽市立高島小学校)

Point

事前、事後指導で野外学習テキストを活用し、課題設定や振り返りの学習を充実させる。

- 実施学年 第6学年
- 教科等 総合的な学習の時間（4時間）
- 目標 ジオパーク施設の見学活動を通して、身近な自然環境とそこに起きている環境問題等を理解し、今後の学習や生活に生かしていく。
- 内容



【ジオパーク施設の見学】

【単元の流れ】

- ① 事前学習で「洞爺湖有珠山ジオパーク野外学習テキスト」を用いて課題を設定する。
- ② グループごとに施設を見学して、課題解決に向けた調査活動を行う。
- ③ 事後指導でテキストを活用して調査活動を振り返り、今後の生活に生かしていくことなどについて交流する。

10. 見てこよう！聞いてこよう！感じてこよう！

(今回の学習の目標です)

- ①火山の噴火では、どんな現象が起きるのかな？
- ②噴火前と噴火後で、大地はどのように変わったかな？
- ③有珠山の噴火では、どんな災害があったのかな？
- ④災害を防ぐために、有珠山ではどんなことが行われているのかな？
- ⑤火山が噴火して、良いことあるのかな？

【洞爺湖有珠山ジオパーク野外学習テキスト】

【配慮事項】

- テキストを活用した事前指導を踏まえ、学習の目標や見学の視点を明確にし、施設見学を行う。
- 施設見学後に身近な自然との関わり方について考える活動を位置付ける。

■ ジオパークを活用した防災に関する学習

(洞爺湖町立虻田中学校)

Point

体験を通して、災害時の対応について主体的に考えさせる。

- 実施学年 全学年
- 教科等 総合的な学習の時間（5時間）
- 目標 火山マイスター等との連携を図り、噴火等災害に対する危機意識を高めるとともに、自助、共助、公助の防災意識を高める。
- 内容



【火山マイスターによる説明】

時間	○主な学習内容	□教師の働きかけ	備考
1	○ 過去の噴火状況等を聞き、防災に関する課題をもつ。	□ 映像資料等の視聴や体験に基づく講話を通して、防災の必要性を理解させる。	・映像資料等の活用
2・3	○ 有珠山ジオパークを地域の方と一緒に探索し、自然の驚異を体験的に捉える。	□ 有珠山噴火の経緯、歴史等を主体的に捉えられるよう、火山マイスターが説明する。	・火山マイスターの活用
4	○ 有珠山、洞爺湖等の自然の恩恵について調べ、地域の魅力について考える。	□ 有珠山、洞爺湖等の様々な自然の恩恵について写真や映像等を提示する。	・映像資料等の活用
5	○ 噴火の際に必要な知識や対応の仕方をグループでまとめ、報告する。	□ 地域マップを利用し、主体的・協働的に考える活動を行わせる。	

「とち鹿追ジオパーク」を活用した実践事例

■身近な地域のジオパークを活用した探究的な学習（鹿追町立笹川小学校）

Point 岩石等の採取、観察等を通して、地層のつくりを実感させる。

●実施学年 第6学年

●教科等 理科（4時間）

●目 標 鹿追町内の地層の観察等を通して、火山灰や砂等が層をつくって広がっている火山の成り立ちについて理解することができる。

●内 容



【地層の観察】

時間	○主な学習活動	□教師の働きかけ	備考
1	○ とち鹿追ジオパーク職員から、火山灰を洗浄して、構成物の標本を作る方法や作成した標本の活用の仕方について学ぶ。	□ 瓜幕地区や笹川地区の地層の構成物を用意し、比較できるようにする。	地域素材の活用及びジオパーク職員との連携
2・3	○ 瓜幕地区と笹川地区の地層が観察できる場所へ移動し、実際の地層を観察し、土を採集する。 ○ 採集した土を洗浄し、解剖顕微鏡で観察し、標本と比較する。	□ 地層の色や重なり方、構成物の色や形に着目させる。 □ 崖崩れ等の安全への配慮をする。	<p>【顕微鏡での観察】</p>
4	○ 調べたことを基に、鹿追町の地層のつくりについてまとめる。	□ 瓜幕地区と笹川地区の地層を柱状図に示し、地層の広がりを理解できるようにする。	

「白滝ジオパーク」を活用した実践事例

■石とふれ合い、石に学び、石と生きる「石育学習」（遠軽町立白滝小学校）

Point 身近にある黒曜石を活用し、ふるさとを愛する心を育む。

●実施学年 全学年

●教科等 総合的な学習の時間・生活科・特別活動

●目 標 白滝地域素材「黒曜石」を教材にした学習を通して問題解決の力及びふるさとを愛する心を育む。

学校・家庭・地域・教育関係機関が密接な連携を図り、ジオパーク活動の担い手を育成する。



【黒曜石実験教室】

●内 容

教科等	実施学年	取組内容
総合的な学習の時間	第3学年～第6学年	・ジオパーク大使任命式 ・黒曜石を使ったものづくり（石器・ツリー・アクセサリー）
生活科	第1・2学年	・講師（大学職員）による黒曜石・火山実験教室
特別活動（遠足）	第5・6学年	・黒曜石の原産地（赤石山・八号沢露頭）見学
特別活動（修学旅行）	第6学年	・札幌駅でのジオパーク宣伝活動

アポイ岳ユネスコ世界ジオパーク」を活用した実践事例

■アポイドリームプロジェクトによる学習

(様似町立様似中学校)

Point 高山植物群落再生事業への参加により、地域に対する愛着や誇りを育む。

●実施学年 全学年

●教科等 総合的な学習の時間（4時間）

●目標 世界ジオパークに認定されたアポイ岳に生息する高山植物の保全活動を行うことにより、地域に対する愛着と誇りをもたせ、自然愛護の精神や態度を育む。

●内容

【活動の流れ】

- ① 6月に第2学年と第3学年の生徒がアポイ岳を登山し、前年に移植した高山植物の状況を調査するとともに、植木鉢で育成した苗を移植する。
- ② 11月に第1学年と2学年の生徒が、外部講師によるアポイ岳の保全活動に係る講話を聞き課題意識をもつとともに、次年度の高山植物の移植に向けた種植えを行う。
- ③ 12月～翌年5月まで、第1学年と2学年の生徒が、アポイ岳に自生する高山植物の苗を植木鉢で栽培する。

【配慮事項】

- 外部講師と連携を図り、アポイ岳における高山植物の保全活動の取組等の関する講話を位置付ける。
- 高山植物の栽培、移植、調査等を通して、自然環境を保全することの重要性を認識させる。



【高山植物の移植】